

どうし きゅうどう  
道志の旧道②



つきよの  
月夜野

つきよの きゅうどう い くちか たい せきとう  
月夜野の旧道の入り口近くに3体の石塔が、ひっそりと建っています。右から六地藏、真ん中と左は庚申塔といひます。昔の人は、庚申の日(60日に一度)に寝ていると体から悪い虫が出てきて、死神様に悪口をいっつけると信じていました。その夜はごちそうを食べながらひと晩中夜をあかしました。この日を3年間ずすと記念の庚申塔を建てました。庚申の日の夜あったことを死神様に言いつけられぬよう、塔の下には、見猿、言わ猿、聞か猿の三匹のお猿さんが彫られています。



りょうごくぼし  
両国橋

つきよの い くち りょうごくぼし かながわ  
月夜野の入り口にある両国橋は、神奈川県と山梨県を分ける県境にあります。



昔から重要な橋で明治時代にはロープでささえられた吊り橋でした。



にほんいち すいげん さと どうしむら  
**日本一の水源の郷をめざして——道志村**



つきよのばんしょ  
**[月夜野番所]**

つきよの かい くに  
 月夜野は甲斐の国と  
 さがみ くに こつきょう  
 相模の国の国境にあ  
 り、戦国時代にはこ  
 ばんしょ せきしょ  
 こに番所(関所)があ  
 りました。村人が山  
 むらびと やま  
 仕事でえた品物を売  
 しごと しなもの う  
 り歩くとき、関所を  
 ある せきしょ  
 とお 通らなければなりま  
 せんでした。谷村の  
 やむら  
 代官所から発行され  
 だいかんしょ はつこう  
 た「馬札」を見せれば  
 うまふだ み  
 通行できました。す  
 つうこう  
 こし前まで「木戸ぎ  
 まえ きど  
 わ」と呼ばれる屋号  
 よ やごう  
 の家がありました。



どうし きゅうどう  
**道志の旧道②**

やくしどう  
**[薬師堂]**



やくしどう やくしにょらい  
 薬師堂は、薬師如来さまを  
 ほんぞん まつ  
 ご本尊としてお祀りしてい  
 ます。やくし びょうき  
 薬師さまは、さまざまな病気をな  
 ほとけ どうし かくち やくしどう  
 おす仏さまで、道志には各地に薬師堂が  
 つきよの まいとし がつ ち  
 あります。月夜野では、毎年一月十一日  
 おこな せきはん  
 におこもりが行われ、赤飯をおそなえし  
 てあつ くよう  
 て手厚く供養されています。



つきよの かじつ おうこく  
**月夜野は果実王国だ**

どうしむら なか つきよの ひがしがわ やまやま ひく につしょうじかん なか  
 道志村の中で、月夜野は東側の山々が低く日照時間が長く、  
 ひょうこう ひく おんだん しょくぶつ せいいく てき とく か  
 標高も低いため温暖で植物の生育に適しています。特に果  
 じつ さいばい さか  
 実の栽培が盛んで、リンゴ、ユズ、キウイ、ミカン、カキ、  
 おお かじつ う  
 カリン、ウメなど多くの果実が植えられています。

はな み  
 花を見て  
 かじつ なまえ  
 果実の名前を **4**  
 あてよう



1)リンゴ 2)ミカン 3)カリン 4)キウイ  
 5)ユズ 6)カキ 7)ウメ